



病院理念 — 思いやりそして努力 奉仕そしてよろこび

ご挨拶

那珂川病院 理事長・院長 下川敏弘

9月になり酷暑は過ぎたとはいえまだまだ暑い日々が続きますがいかがお過ごしでしょうか。

8月には自宅近くの公園で打ち上げ花火を見ることができました。たくさんの方が夕涼みがてらに集まっていました。視覚的に色鮮やかに広がる光景だけでなく、ドーン、ドーン、パリパリパリといった聴覚にも響くものがありました。その時、隣にいた人が呟きました。「シリアとか戦争地域の子供たちにはどう聞こえるのかしら」と。砲撃や機銃掃射を思い出すことになるのでしょうか。若干目頭が熱くなりました。やっぱり平和はいいなと。平和あつてのことだなと。

平和、戦争や紛争やテロがなく生命が他者の外力によって脅かされる可能性がなくなって、やっと病気や不慮の外傷に関心を向けることができます。私たちが日々関与している医療や介護や福祉の問題は平和であることが必須の基本条件となっています。騒乱の中にいる人たちに、夏の暑い夜空を彩る打ち上げ花火を見てもらいたいものです。甘いと思われるでしょうか、羨ましいと思われるでしょうか。

そんなことを思った後に1つ気づいたことがあります

した。この酷暑の毎日が続くのに電力逼迫の報道がないのです。報道ではエアコンの使用を奨励し、熱中症予防を呼びかけているのにです。なぜかネットではなく新聞でその原因を数日探しました。なんと、晴天が続くために太陽光発電が有効となって総電力にも余裕があるとのことでした。日本の稼働可能な原発が35基ある中で稼働中が6基とのこと（これはネットで探しました）。再生可能エネルギーも案外捨てたものではないなと感心してしまいました。個人的には核分裂ではなく核融合による原子力発電に興味があるのですが、現在での脱原発もやはり可能ではないかと思っています。小泉元首相ではありませんが、政府が強く政策として〇〇年後に原発ゼロといっても不可能ではないと思っています。こんなに地震が多くて地盤が不安定な国土に、しかも、冷却水が大量に必要なために海岸線にしか作ることのできないもので事故をゼロにはできない原発は、やはりやめた方がいいと



考えます。脱原発の方向性を示すべきです。

さて、現実的には労働人口が減り超高齢化社会を迎え現状のままでは社会の維持は困難との見方が多数を占めています。ワークライフバランスが問題となり働き方改革が注目されています。優先順位をつけることなくいくつもの課題を並行的に検討して落としどころを探らねばなりません。まずは、私たちができる地域医療に貢献したいと考えています。それでも、すべては平和であつてのことだと思います。



ムラサキシキブ

ボランティアだより

はじめまして。

私たちは大分市内で手作りのアルバムを作っている「絆」と申します。

「絆」は趣味を活かして、何かお役に立てる活動をしたいと、集まったボランティアグループです。

参加するためのルールは「無理をしない」「人の悪口を言わない」の2つだけです。

集まる日も時間も決まっていません。いつ誰が来ても、次の作業行程がわかるようにしています。

1人で黙々と作業をしていると、心が落ち着いて「写経」をしている時のような穏やかな気持ちになります。4～5人集まった時には、話題はほとんど明るく楽しいことばかりで、いつも笑い声があふれています。時にはお腹が痛くなるほど、笑い転げることもあります。

「絆」のメンバーの中には、お菓子作りの天才がいて、ケーキやクッキーはもちろん、和菓子まで作って来てくれます。その上ティータイム

になると美味しいコーヒーを入れてくれる人もいます。彼は「絆」と同じ場所を共有している人で、那珂川病院の緩和ケア病棟とのご縁をつないで下さいました。美味しいコーヒーとお菓子と楽しい仲間たちと過ごす和やかな時間。人生の至福の時です。

このご縁を大切にして、これからも患者さんやご家族にとって、思い出の1枚を飾れる写真立てを、丁寧に心を込めて作っていきたいと思います。微力ではありますが、よろしくお願い致します。

スクラップブッキング大分「絆」

代表 木村まり



**ボランティアスタッフは随時募集しております。
ご興味のある方、ぜひ一度お気軽にご連絡ください。**

**問い合わせ先 TEL: 092-565-3531 那珂川病院（代）
ボランティアコーディネーター 山下公子**



看護師

久保 紗季

緩和ケア病棟に入職し約6カ月が経ちました。多くの患者さんやご家族との関わりを通し、緩和ケアの難しさや命と向き合うことの尊さを感じています。

当病棟では、患者さんとそのご家族の希望を叶えることができるよう、他職種が共に考え、それぞれの視点からアプローチしています。

患者さんがその人らしく、今を大切に過ごすことができるようチームの一員として、私自身ができることを日々模索していきたいです。



看護師

末安 恵里

今年3月より勤務させていただいています、末安と申します。緩和ケア病棟では音楽療法やアニマルセラピーなど日々様々な活動が行われています。

私自身もピアノの音色に癒やされながら働かせていただいています。おひとりおひとりの命と向き合い、様々な人生を歩まれてきた患者さんにご家族から学ぶことは多く、1つとして同じ看護はないことを改めて感じました。

人生のひと時に携わらせていただいていることに感謝し、看護師として何ができるのか、患者さんにご家族が安心して過ごすことができる環境づくりをしていきます。よろしくお願いします。



緩和ケア病棟基本方針

1. 患者さん、ご家族に寄り添い、信頼される質の高いケアを提供する。
2. スタッフ一人一人が役割を自覚し、個々の良さを充分発揮できる。
3. チームが連携をとり、助け合い、認め合い、共に考える環境をつくる。

緩和ケア病棟目標

1. 患者さんに苦痛がなく、持てる力を信じ、発揮できるようサポートする。
2. 患者さん、ご家族の思いに心を傾け、寄り添う。
3. 患者さんの生活環境への気配りをし、人生の振り返りができる状態を整える。

病棟
行事

お月見



部署 紹介

安全管理室

安全管理室 看護師長 中塚 佐智子

今年度より安全管理室勤務となりました、中塚でございます。長きにわたり病棟師長として奮

闘してまいりましたが、この度皆様の平和を守るため安全管理者として任を賜り、新たな境地で迷走しながら従事しています。

では、安全管理室についてご紹介いたしましょう。

皆さんは「安全管理」と聞くと何を思い浮かべるでしょうか。多くの方は、医療事故対策を考えるとと思います。

そもそも、安全管理とは「安全を維持し、災害を未然に防止するための諸活動」「事業活動に伴う災害の予防と処置のため企業が実施する体系的方策」です。

医療安全ではリスクマネジメント（リスク管理）とセイフティマネジメント（安全管理）を行います。

「他山の石」のごとく他者の失敗などに学び、活かしていく必要があります。

当安全管理室では、主に「医療安全」と「感染管理」を担っています。毎朝、医療関連ニュースを確認し、関連部署へ情報提供を行います。いざ、院内パトロールへ出発し、各部署からの情報入手後、業務改善に繋げることができるか検討します。感染症対策では流行に後れをとらないように、最新情報を元にポスターなどの準備を行います。今年5月の麻疹流行では気が抜けませんでした。

このようにして、1日があっ！という間に過ぎていってしまいます。医療安全・感染管理ともに1人では決して成しえることはありません。皆様のお力に支えられてできることです。

これからも、一意専心の気持ちを忘れずに、日々精進してまいる所存でございます。どうぞ、皆様、おひとり様で頑張る安全管理者に、今後ともご指導、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。



安全管理について関連部署と連携をとっています

2017年九州北部豪雨災害活動

透析室看護師 梶原 絵梨奈



平成29年7月5日～6日朝倉市付近に線状降水帯が発生し、同じ場所で長時間猛烈な雨が降り続き、気象観測史上最大級の豪雨となりました。

災害発生後、福岡県より福岡県看護協会へ災害支援ナース派遣の要請があり、7月15日～31日の期間、第8陣構成（1陣が各8～10名で2泊3日）で私は第2陣として活動に参加いたしました。

車で杷木インターを降り、最初に目に飛び込んできたのは、たくさんの土砂、流木で変わり果てた風景でした。4箇所の避難所に各2名ずつ派遣され、私は朝倉市のらくゆう館へ行きました。避難所には、その地区のコミュニティ・行政・自衛隊・ボランティアなど支援チームが連携し、日中は保健師をはじめ医療チームが各避難所を巡回していました。

私たちは、主に夕方から翌朝まで被災者の健康相談（管理）、心のケアを担当しました。避難所におられる方は、自宅の崩壊やライフラインが復旧していないため避難所生活を余儀なくされていました。仕事がある方はいつも通りに出勤し、学生は学校へ行き、それ以外の方々は、日中自宅に戻り家の片付けや土砂をかき出す作業を行い、夕方には避難所へ戻るというライフスタイルでした。

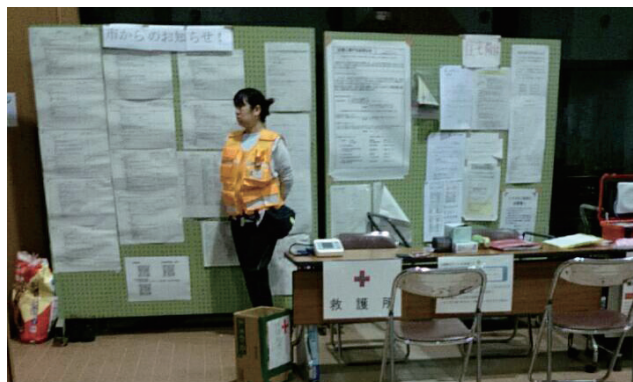
私たち支援ナースは、避難所で被災者が一

番滞在している時間帯に活動し、夜中でも何かあればすぐ対応できるよう、被災者への声掛けや部屋を巡回して変化がないかを確認しました。災害による疲れで体調を崩す方、瓦礫でけがをして帰って来る方、熱中症になる方、避難勧告が出てあの日のことがフラッシュバックし、不安になり体調不良となった方などさまざまでしたが、「支援ナースが常駐することで安心」との声もいただき、私たちの活動が被災者支援に繋がっていると実感できた瞬間でした。

九州北部豪雨から1年が経ち、今年も同じように豪雨災害で西日本を中心に甚大な被害が発生しています。自然災害は地震や豪雨だけではなくありません。いつ、自分にも被害がふりかかるのかわかりません。常に何が起きても対応できるように、常に備えておく必要があります。

今回の支援活動で、学ぶことも多くありました。杷木の方々はそれぞれが被災者でありながらも、地域の方々と家族のように助け合われている姿を見て、人との繋がり大切さを改めて感じました。

最後に、このような貴重な体験をさせてもらえた那珂川病院をはじめ、職員の皆さま、また家族に深く感謝いたします。



社会医療法人喜悦会に 新しく仲間入りをいたしました

～二日市共立病院のご紹介～

当院は平成 30 年 4 月 1 日より、社会医療法人喜悦会の一員としての新たなスタートを切りました。元来は、昭和 41 年に医療法人松風会二日市共立病院として、筑紫野の地に開設された歴史ある病院です。初代院長の重松節雄医師は、第四十代筑紫医師会会長として、また現在の一般社団法人福岡県私設病院協会の前身である、福岡私設病院懇話会の発足から関わり、長年地域医療に貢献して参りました。

開設以来一貫して地域医療の一翼を担って参りましたが、この度のご縁により今後は社会医療法人喜悦会の一員として、より一層努力邁進して参る所存です。地域の皆様、医療関係者の皆様には、今後とも変わらずご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

当院は許可病床 50 床全てが療養病床で、内科・消化器内科・循環器内科を中心に、これまで同様地域の皆様に愛される病院であり続けられるよう職員一同頑張っております。医療圏におきましては、急性期以降の患者様の受け入れをさせていただき、その役割を果たして参りました。立地は JR 鹿児島本線二日市駅から徒歩二分、西鉄大牟田線紫駅から徒歩五分という交通至便な場所にあります。

現在、重松明博院長を中心に、ちくし那珂川病院から片桐邦彦先生、那珂川病院から竹中理先生を迎え、日々患者様の診療に当たらせていただいております。今後は、これまでの地域密着の姿勢を堅持しつつ、那珂川病院やちくし那珂川病院で培ったノウハウを取り入れて、真に患者様方に信頼して愛していただける病院を目指していきたいと考えております。また、これまで以上に地元の医療機関や介護関係の施設とも連携を強化していただけますように、切に願っております。

医療界を取り巻く環境はまさに変革の時、厳しい時代を迎えております。今後は看護師・看護助手、事務職員、栄養課職員など、全ての職員が自覚を持って研鑽に励むとともに、患者様のニーズに見合う設備の充実を図って、より良い医療・看護を提供できます様に努力して参る所存です。

那珂川病院 外来担当医予定表(2018年9月現在)

■午前(診察時間/9:00~12:00) ※外来担当医予定は都合により変更となる場合がございます。ホームページなどでご確認ください。

診察室	月	火	水	木	金	土
診察室1	朔(第4のみ) (循環器内科)		山尾(完全予約) (糖尿病内科)	大橋(内科)	中川(完全予約) (糖尿病内科)	片桐(第2・4のみ) (脳神経外科)
診察室2	立元(内科・禁煙外来)	立元(内科・禁煙外来)	安藤(循環器内科)	安藤(循環器内科)	森戸(循環器内科)	佐々木(内科)
診察室3	筒井(内科)	今泉(循環器内科)	藤澤(腎臓内科)	藤澤(腎臓内科)	筒井(内科)	
診察室5		中本(脳神経外科)	眞田(外科)	中本(脳神経外科)	吉村(外科)	外科当番医
診察室6		吉村(外科)	井上(麻酔科)	古田(外科)	牧野(緩和ケア)	瀬尾(第3のみ)(外科)
診察室7	木村(外科)	下川(外科)	大国(緩和ケア)	下川(外科)	工藤(外科)	
診察室8	齊田(受付11時まで) (整形外科)	月江(緩和ケア)	齊田(受付11時まで) (整形外科)		齊田(受付11時まで) (整形外科)	若杉(第2のみ) (内科)

■午後(診察時間/13:00~17:00)

診察室	月	火	水	木	金	土
診察室1		大橋(内科)	山尾(完全予約) (糖尿病内科)		大橋(内科)	
診察室2	安藤(循環器内科)		立元(内科・禁煙外来)		豊原(循環器内科)	
診察室3	牧野(緩和ケア)			筒井(内科)		
診察室5		眞田(外科)			行實(血管外科)	
診察室6				吉村(外科)	中本(脳神経外科)	当番医
診察室7		泌尿器(担当医)(要予約)	古田(外科)	月江(緩和ケア)		
診察室8	眞田(外科)					

診療時間 平日 9:00~17:00 土曜日 9:00~12:00
 休診日 日曜・祝祭日 年末年始(12/30~1/3)
 ※急患はその限りではありません
 お問い合わせ先 電話:092-565-3531 FAX:092-566-6460
 ※急患は24時間いつでも受診可能です。

常勤医師診療担当表 平成30年9月1日現在

医師名	担当領域	医師名	担当領域
下川 敏弘 (院長)	外科・呼吸器外科	行實 崇	人工透析・血管外科
大内田 敏行 (副院長)	放射線科	中本 守人	脳神経外科
吉村 寛志 (副院長)	外科・消化器外科	筒井 伸一	内科・消化器内科
古賀 善彦	外科・リハビリテーション科	安藤 智恵	内科・循環器内科
井上 彰子	外科・麻酔科	藤澤 正寿	内科・腎臓内科・人工透析
古田 斗志也	外科・消化器外科	大橋 朋子	内科・肝臓内科
眞田 雄市	外科・消化器外科	立元 貴	総合内科・糖尿病内科
齊田 光	整形外科	大国 貴史	緩和医療・漢方内科
		月江 教昭	緩和医療・循環器内科
		牧野 毅彦	緩和医療



【交通】西鉄バス系統番号4番・47番・62番・620番
 「那珂川病院前」下車すぐ
 ■駐車場150台

病院理念 思いやりそして努力 奉仕そしてよろこび

基本方針

- 地域に根ざした最善の医療サービスを目指します。
- 地域で必要とされる医療(救急医療、亜急性期・回復期医療、在宅医療、緩和医療)を提供します。
- 周囲の医療機関・介護福祉施設との緊密な連携によって連続したサービスを提供します。
- 生活習慣病に代表される慢性期疾患の予防のために生活指導や栄養指導などで患者さんを含め地域の日常生活の向上を目指します。
- 患者さん中心の医療となるように患者さんの権利を守り、情報開示義務や説明義務を果たして、その環境を整えていきます。
- 職員同士がお互いに尊重し合う、働きがいのある職場を作ります。
- 職員同士のコミュニケーションを活発にし、円滑な業務連携に努めます。